

こまち流 “まちの担い手”が育つ 場のコーディネート 研究実践 報告書

～市民の「やりたい」が
制度やサービスのスキマをうめていく～



特定非営利活動法人 こまちぷらす

1. イントロダクション

人口減、税収減の中で、主体的に地域課題に取り組む人材の確保及び限られた公的支援が的確に必要としている人に届くことがより一層求められています。「自助」「互助」「共助」「公助」の中でも「共助」「公助」の大幅な拡充を期待することは難しいといわれている中で、「自助」「互助」の果たす役割が大きくなることを意識した取組が必要です。とりわけ、「子育て」「介護」「障がい」といった身近な社会的課題に対して、担い手になっていく人が少ないことは喫緊の課題となっています。

その背景には、多くの一般市民にとって既存の担い手を育成する公的なサービス（担い手育成講座）や施設はアクセスしづらく、個々人の技能・自信・ソーシャルキャピタルを形成する装置が地域に少ないことが要因の一つとしてあるのではないかと我々は考えています。また、個々人の自己肯定感や自信を醸成し、非公式のネットワークをつくり維持するための時間や資源はマネタイズしづらいということも、担い手育成が進まない要因だと考えます。

しかし、少子高齢化自体は課題というだけではなく、京都大学こころの未来研究センター広井教授の言葉をお借りすると、表2のように地域密着人口が増えることでもあります。地域に密着して暮らし、担い手となりうる人が増えるということでもあります。

表1：

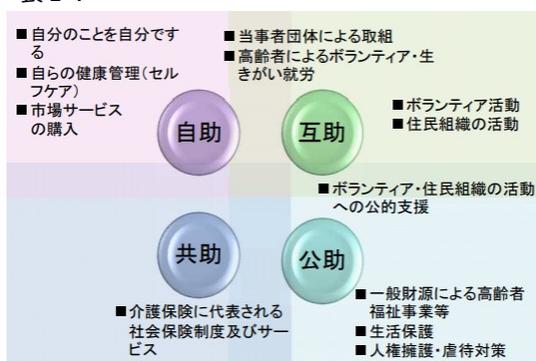
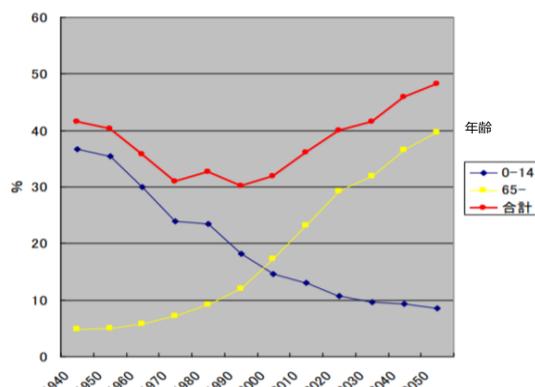


表2：人口全体に占める子ども・高齢者の割合の推移（1940～2050年）



出典：平成 25 年 3 月 厚生労働省 地域包括ケア研究会報告書より

出典：「創造的福祉社会」（広井良典、2011年）より

そこで、地域に住み目を向け活動できる人口が増えるチャンスでもあるこれからの時代、どのように地域に関わるきっかけを敷居低く、多くつくることができるか、に焦点をあて、「まちの担い手はどのように生まれるか」「（主体市民に寄り沿う）コーディネーターはどのように育つのか」「どのように事業性をもって担い手育成・コーディネーター育成を継続できるか」この3つの問いに対する答えを、事業を通して明らかにしようと試みています。

本事業では、「互いに関心を持つ」や「自分のやりたいことを見つけ探す」というゆるやかな入口からスタートし、「地域の誰かの役に立つ」「その感謝の言葉から喜びを感じる」といった循環を経て、結果的に「いつのまにかまちの担い手になっていた」という流れをいかにつくることができるか、をカフェという場に落とし込み実践を通して検証してきました。

本事業は、日本財団の助成を受けて NPO 法人 CR ファクトリーと NPO 法人こまちぷらすが協働ですすめてきた研究助成プロジェクトです。本資料を通し、この事業をすすめながら見えてきた成果だけでなく、葛藤や迷いも含めお伝えしながら『「まちの担い手」がいつのまにか地域で増えていた』という状況をいかにより多くの地域でつくっていかれるかを、今後全国の皆さんと一緒に考えたいと思います。その先に、全国各地で活動されている皆さまや、それらの活動をサポートされている中間支援・行政のみなさまと、子育てはもちろん、介護・障がいといった身近な社会的な課題に主体的に取り組む人が増え、誰もが自身や家族がどんな立場になっても豊かに暮らせる社会の実現を目指していきたいと思えます。

2. 実施概要

目的：本事業の目的は、カフェという場や装置を通して一般市民が一杯のコーヒーを飲みに来る敷居の低さから「場」へ参加でき、カフェにおけるコーディネーションにより地域の担い手になるまで伴走するモデルをつくることを目的としています。

実施期間：2016年4月～

実施地域：神奈川県横浜市戸塚区、近隣区、千葉県松戸市等

3. 実施主体について

本事業は、カフェという実践の場を持つ NPO 法人こまちぷらす及び NPO や様々な非営利団体の中間支援を長年実施しコミュニティ形成のノウハウを持つ NPO 法人 CR ファクトリーが、日本財団の助成のもと協働で実施をしている事業です。

NPO 法人こまちぷらすについて

NPO 法人こまちぷらすは「孤立した子育てのない社会」の実現に向けて 2012 年から活動をしています。

孤育てのない社会を

子育てで孤立することなく、子どもの誕生が歓迎される社会をつくるために、様々な社会的課題解決型事業を提案しています。異なる立場からの視野の共有を図り、新たな価値を創造しています。

「子育ても、まちでプラスに。」
こまちぷらすの 6 つの事業



こまちカフェの運営や情報発信、様々なスペシャルニーズの自助会的な場の運営といった子育て中の方に向けての直接アプローチ（上記図青線内）と、商店会事務局やヤマト運輸さんとともに立ち上げたウェルカムベビープロジェクト等、既存の福祉分野だけではないまちの様々なプレーヤーの方々の理解を深め、共に子育て環境の改善に向けた協働の場を設計するアプローチ（上記図赤線内）の 2 つのアプローチをもとに 6 つの事業を 50 人のスタッフ・ボランティアのみなさんとともにを行っています。福祉的なサポートを多く必要とする方にとっての「日常の場」であるのと同時に、福祉的なサポートを必要としているわけではないものの何かしらのサポートが必要な方にとって制度やサービスの間隙を埋めるような日常の中の「サポートの場」である、という二点を満たすべく事業を展開して参りました。



こまちカフェ詳細

住所：〒244-0003
神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 145-6 奈良ビル 2F
営業時間：10:00-17:00（日・祝お休み）
HP：<http://comachiplus.org/>
E-mail：staff@comachiplus.org



NPO 法人 CR ファクトリーについて

NPO 法人 CR ファクトリーは、「すべての人が『居場所』と『仲間』を持って心豊かに生きる社会」の実現をビジョンに活動しています。主な事業内容は「NPO・市民活動・サークル活動」の組織運営・マネジメント支援を強みに、行政や中間支援組織と連携しながら、セミナー・コンサルティングを全国各地で実施しています。主な実績は、「地域コミュニティの担い手養成（東京都中央区）」、「地域をつなぐコーディネーター養成講座（東京都武蔵野市）」、「かまがや地域づくりコーディネーター養成講座（千葉県鎌ヶ谷市）」など。

ビジョン/ミッション

【ビジョン(目指す姿)】
すべての人が自分の「居場所」と「仲間」を持って心豊かに生きる社会

【ミッション(使命)】
居場所と仲間を感じる
あたたかいコミュニティを世の中にあられさせること

基幹技術・ノウハウ

愛着と関係性のマネジメント

「団体・組織への愛着」や「スタッフ・仲間との関係性」をどのように高めていけば良いのか、についての技術・ノウハウ

愛着：この団体のことが好きだ・居心地が良い
関係性：この仲間と一緒に仕事・活動していることが楽しい

<NPO 法人 CR ファクトリー詳細>

〒105-0014
東京都港区芝 4-7-1 西山ビル 4 階

HP：<http://crfactory.com/>
お問い合わせ：info@crfactory.com

日本財団について

「みんなが、みんなを支える社会」をめざし、市民、企業、NPO、政府、国際機関などの世界中のあらゆるネットワークに働きかけ、知識・経験・人材をつなぎ、ひとりひとりが自分にできることで社会を変える、ソーシャルイノベーションの輪をひろげる活動や支援を行っています。様々な取り組みの中でも特にプロジェクトとして立ち上げ活動を行っているものとして、子どもサポートプロジェクト、災害復興支援等、近年の主な取り組みは「パラリンピック支援」「ハンセン病～病気と差別をなくすために～」など。子どもサポートプロジェクトでは寄付金も集めています。「日本財団 難病児支援」で検索下さい。

日本財団 HP <https://www.nippon-foundation.or.jp/>

4. 用語の定義

本事業における「まちの担い手」の定義

「私のやりたい」を原動力に、地域のソーシャルキャピタル（つながり）を醸成しながら、公的制度やサービスの狭間を埋めている一般市民。

無関心層・興味層・愛着層・主体層・主体市民層とは

無関心層：	居場所を知らない
興味層：	居場所に足を運んだことがある イベントに参加したことがある
愛着層：	通う場所（居場所）がある 知り合いがきている
主体層：	担い手意識をもちながら何か 役割を担っている
主体市民層：	地域課題に対して団体立ち上げ運営 もしくは企画立案実行している

図1：こまちカフェにおける興味愛着主体主体市民のモデル（2016）

	興味	愛着	主体（P2メンバー）	主体市民（地域で活躍）
達成状態	イベントに参加したことがある	知り合いがきている	何か役割を担っている	地域課題に対して団体立ち上げ運営 Or 企画立案実行している
打ち手	・飲食 ・イベント ・haco+（雑談）	・パートナー登録説明会 ・面談 ・おしゃべり会	・パートナーぶらす会員交流会（学び・相互メンタリング） ・もくもくの会	・フューチャーセッション ・フューチャーアクションセッション
事業性	恩送りカード	参加費	パートナーぶらす会員費（半年3000円）	法人協賛・個人寄付
指標	700人	70人	30人	15人

コーディネーターが各フェーズをコーディネート（集客・つなげる・適材適所など）

※打ち手とは…「どの層にどんな手を打ったら響くか」を考えた関わりの入口やきっかけとなる仕掛け。

※「興味→愛着→主体」のモデルは NPO 法人 CR ファクトリーが考案したものを NPO 法人こまちぶらすと共に「居場所」における打ち手への落とし込みを本事業を通して実施。無関心層や主体市民層のモデルについては本居場所事業のコンテンツとして発展。

こまちパートナーとは

こまちぶらすの理念に共感し自身の「できる」や「やりたい」を模索し掛け合わせながらスタッフと共に活動を推進しているボランティアメンバー。2018年2月現在約100人登録。



こまちパートナーの方企画によるイベント

フューチャーセッションとは

立場の違いを超えて人々が集い、子育て・障がい・介護などの身近な社会的課題をそれぞれ角度から見つめ、対話し、自分のアクションを考える場。当事者、支援者、企業、行政、地域といった異なる立場の人が30人～30人程度参加し、当事者の声を可視化したツールを使用したワークショップ。

- ・2017年度実施回数3回(介護、子育て、障がい) (2016年度～計5回)
- ・2017年度延べ参加者数110名 参加比率 当事者4：地域の事業者(企業・行政・支援者)6

参加者の感想より

「この場でないと出会えなかったであろう方と出会い、自分の思いや相手の思いを聞いた。」
 「子育て・介護・世代交流、人と人をつなぐことが求められていると実感。」
 「自分の、いち主婦(?)の声企業が行政にとどくかと思うとドキドキしていたが、聞いてもらえて誰かの気づきになることがとても嬉しかった。」

ワークシートに書かれた「私のアクション」の例

- ・近所の子育て世代の家族と小さな支え合いをしたい
- ・友達と介護について話してみる
- ・町内会のイベントなどに積極的にかかわる・“空き家”を活用して、多世代交流できる「居場所づくり」を行っていきたい

フューチャーセッションのチラシ

5. こまちカフェにおける「担い手の育つ場」の取り組み

【カフェを訪れた方の「やりたい」が育ち、アクションに向けて動く「主体」になるまで】

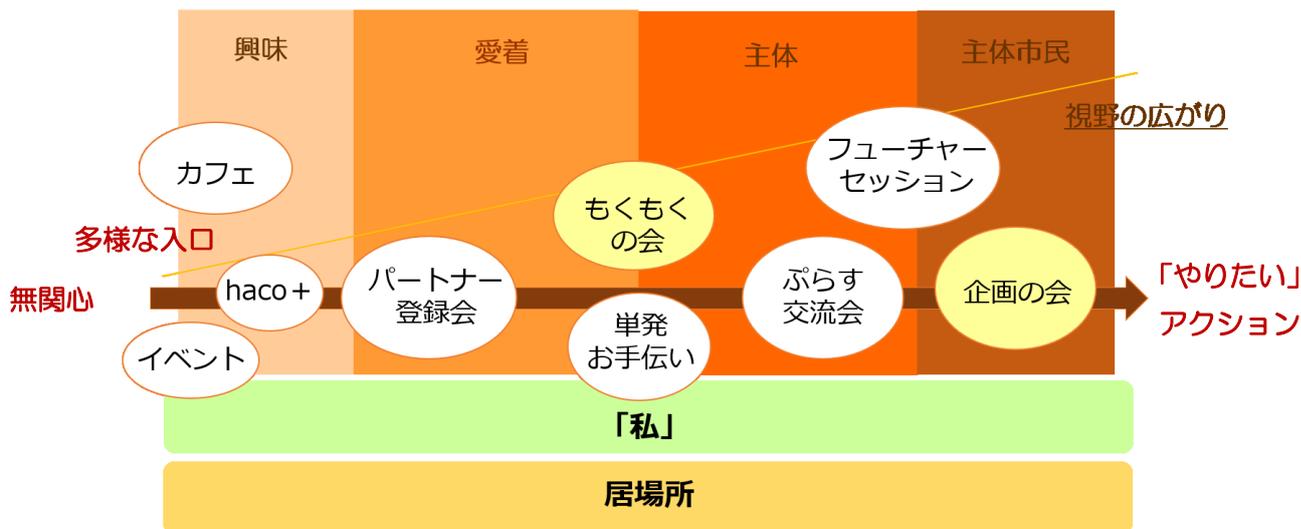


図2：興味から主体市民までのこまちカフェモデル（2017）

【ポイント】

- ① 様々な入口があり、そのときに自分に合った入口を気軽に選べる。
- ② それぞれの機会が「楽しそう」という雰囲気がある。
- ③ すべてのステージで、「私」の思いを考え伝える機会がある。
- ④ 「居場所」を通し他パートナーやスタッフと知り合う機会がある。
- ⑤ 相手の思いや誰かの声にふれ、視野が広がる機会がそれぞれの段階にある。

【2016年度より実施の取り組み】

- こまちパートナー登録説明会…こまちぷらすの理念や活動を知り自分について語り合うワークも実施。
- イベント…当事者性の高いテーマにしぼった形で互いの思いを話し合う「おしゃべり会」など。
- パートナーぷらす会…パートナー同士がつながる場。交流会や研修会を月1回半年間実施。
- フューチャーセッション…前頁参照。

【2016年度の成果】

パートナー登録数（愛着）68名 パートナーぷらす会員（主体）12名
 企画や団体を立ち上げた人（主体市民）6名 ※2017年度主体市民定義 自主財源 1,197,925円

【2016年度の課題】

- 課題① 様々な「やりたい」という企画が持ち込まれるものの、一人一人の「自己実現」の伴走をする時間が不足。
- 課題② やりたいことが見つからず、登録はしたものの活動に至らない人が増えてきた。



上記2課題を受けて、特に「愛着」～「主体」「主体市民」へと高める2つの新たな打ち手を開始。

【2017年度の新たな打ち手】

- ① 「企画の会」…パートナーを対象に、企画の立て方を学び地域の課題と実際に自分の「やりたい」をつなげ、形にする場。
- ② 「もくもくの会」…1～2時間ほどでできる作業をカフェにて「もくもく」とする。

【新規打ち手詳細】

「企画の会」

全3回講座を実施。（時期：12月～2月）参加人数5名 発表企画数4企画。
 様々な市民の「やりたい」に個別に伴走するのではなくグループ研修。
 1回目：自分の「やりたい」は何か？と、その思いと団体の理念がにつながる部分を考える。

2回目：企画の立て方や集客など企画実行においてハードルとなる箇所を学ぶ。

3回目：実際に立てた企画を代表副代表スタッフ、他参加者の前で発表。

発表された企画：障がいや生きづらさを感じる小学生の母親を対象とした会

手作りを通した中高生母親のおしゃべり会

戸塚へ引っ越してきたばかりの方への企画

HSP (Highly Sensitive Person) かもしれない人への企画



企画プレゼン

「もくもくの会」

2017年7月～2018年2月末述べ62回（6～10回/月程度）実施。延べ参加者80名。実参加22名。

主な作業内容：チラシ郵送準備、ワークショップで使用するカード等の作成、清算準備、

イベントチラシデータチェック、haco売り上げ確認等

〔場の特徴〕

- ・ 集団やグループでの交流には勇気がいる方も気軽に参加できる場。
- ・ 「役割」があり、「必要とされて」参加できる場。
- ・ 作業を通して、こまちぶらすの活動や取り組みが違う角度から見える。
- ・ 自分に合うものや好きなことは何か？を考えながら小さなトライ&エラーができる場。



カフェでの作業

【2017年度の成果】 2017年4月～2018年2月末

パートナー登録 (愛着) 42名 (2015年の開始より 計103名)

パートナーぷらす会員 (主体) 37名(延べ人数) 企画にかかわった人(主体市民) 25名

6. どうしたら「まちの担い手」となる人は集まるのか？育つのか？

【仮説1】「やりたいこと」がある人がボランティア登録し、主体的な担い手となる

○どんな人がパートナー登録しているのか？ ※登録者103名の登録時アンケートより



半数以上の方が、具体的もしくは漠然とした「やりたい」はなく、こまちぶらすの活動には関心がある状態で登録。「やりたいこと」「自分のできること」を探すために登録。

○上記のうち、ぷらす会員（主体）となった方々のパートナー登録時は？



上記全体の結果と同様。
登録後に足踏みをしながらかつ自分のやりたいことを模索する時期が長く、その時期にそれぞれ必要な安心感を得られたときに主体になれることが分かった。

○どのタイミングで「やりたい」は育ったのか？

【アンケート(※)から見てきたこと】 ※ぷらす会員のうち22名にアンケート実施。

① こまちぶらすに関わった「打ち手」の順番 ⇒ 全員それぞれ。同じ順序の人が一人もいなかった。

➡ ひとりひとりにあった順番やペースで模索できる機会のバリエーションの重要性。

② パートナー登録～主体に至るまでのプロセスの中で、「スタッフの声かけや後押し」がどのステップへの参加においても有効である。(パートナー登録会は38.1%・パートナーぷらす会員は31.8%・企画の会は37.6%が「スタッフからの勧めが決め手となった」と回答) また、主体⇒主体市民のステップにおいては、スタッフのみでなく「パートナー仲間からの誘い」もきっかけとなっている。

➡ 関わりが続くにつれて、背中を押す人が増えている。 パートナー同士のつながりができることによる安心感が増している。

[上記のうち3名へのヒアリングより]

Aさん イベント参加⇒ パートナー登録 ⇒ おしゃべり会企画 ⇒ マニュアル作成
⇒ ぷらす会員 ⇒ 上映会実行委員長

参加のきっかけは**自身の子育てにおける不安**から。カフェへ飲食で行く勇気はなかったが、自身の不安にかかわる「おしゃべり会」には**誰がいるかわかる安心感**があり参加。自身の体験から**多様な入口の重要性**を実感。関わり続けているのは「**恩返し**」と「**関わる人をふやしたい**」という思い。

Bさん おしゃべり会 ⇒ パートナー登録 ⇒ 面談 ⇒ もくもくの会 ⇒ ぷらす会員

参加のきっかけはおしゃべり会。出産前まではフルタイムで働いており、まちの中で**のつながりはあまりなかった**。来るたびに**居心地**がよくなり**安心感**が増した。もくもくの会は関わり続けられる良いきっかけだった。**役立ち感**も得られ、こまちのことを知る機会。復職後も「まちの中に居心地よく過ごせる場があること」「目的がなくても行ける場があること」を伝えていきたいと思っている。

Cさん 外部イベント ⇒ カフェ来店 ⇒ パートナー登録 ⇒ イベント手伝い

⇒ ぷらす会員 ⇒ 見守りボラ・もくもく ⇒ 企画の会

来店のきっかけは外部イベントで食べたこまちの料理。4-5年前からこまちカフェのことは知っていたが**勇気がなかった**。来店したら「**来て大丈夫**」と思えた。自分のペースで何かできるなら…と、パートナー登録。思いがけず自分の心のうちや特性（HSP）を相手に話した時、「**自分がここにいていいんだ**」と感じた。「もくもくの会」やカフェでの見守りボラという無理なくできる関わりがある。自分のことを伝えることで**自分の自信**につながる。

ひとりひとりにとってのきっかけと関わり続ける思いでのキーワードの**独自性**
「恩返し」・「地域での居場所」・「自己肯定を得られる場」

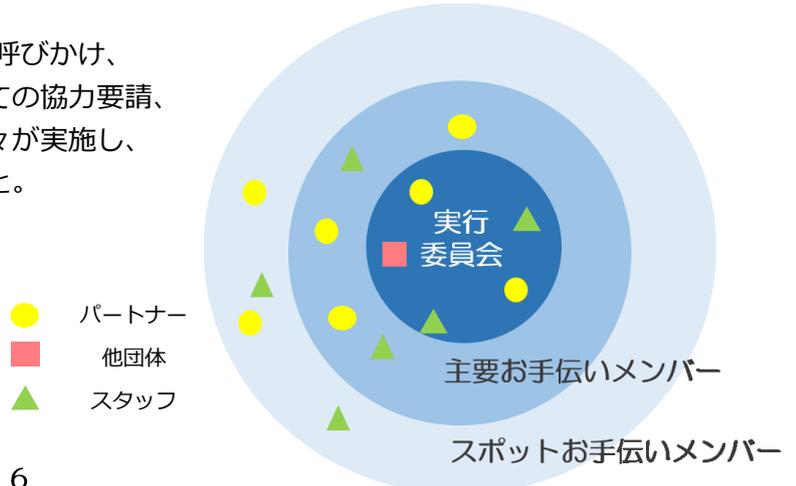
【仮説2】活気のある土壌から、「まちの担い手」がうまれる。

2017年度において特筆される動きとしては、パートナー（愛着層）及びパートナーぷらす会員（主体層）が主となって実行委員会をつくり、350人を超える人数をこえたイベント（難病をテーマにした映画の上映）の実施をしたこと。豊かな主体層が愛着層をひっぱりあげる形で企画化、組織化し地域のソーシャルネットワークを醸成しながら企画実行まで動いた。

<本事業におけるポイント>

- ・初期パートナーぷらす会員（活動歴が長くより主体的な活動をしてきたメンバー【主体層】）が**主体**となり、比較的活動歴の浅いパートナー（【愛着層】）を誘いながら実行したこと。
- ・他団体ともパートナーシップを組んだ実行委員会であったこと。
- ・地域の子育て関連施設・カフェ・薬局等の店舗・企業・他市内外NPOへの協力依頼、協賛や寄付の呼びかけ、行政への後援依頼や校長会・幼稚園長会等に向けての協力要請、テレビやラジオでの出演等までをパートナーの方々が実施し、そこにコーディネーターやスタッフが伴走したこと。

図3：上映会の実行委員会組織イメージ



7. 居場所づくりコーディネーター育成について

上記のように、組織の主体や「まちの担い手」が増えるためには、敷居の低い居場所において効果的に打ち手を打ち、伴走する存在が欠かせないことがわかります。

その伴走するコーディネーターは組織内にて、どのように育成し、また、育成し続けられるのか、組織内全体にその伴走文化を広めていくことができるかを検証してきました。

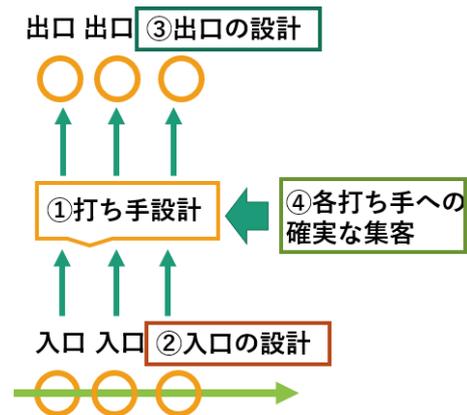
居場所づくりコーディネーターにはどんなスキルが必要か

まず、居場所づくりコーディネーターが実施していることは右の図の通りです。

【4つのスキル】

- ① 打ち手の設計（伴走含む）
- ② 入口の設計
- ③ 出口の設計
- ④ 各打ち手（登録会・ぷらす会等）への確実な集客

図4：居場所づくりコーディネーターの役割



また、その①-④の中でも、意識的に実施していることは次の4つの事項です。

- A. 関わる人のやりたいこと（WANT）の引き出し
- B. 気持ちの傾聴
- C. 関わる人同士の仲間・コミュニティの形成
- D. 理念共有

どのように育成するか

〇コーディネーター候補2名への集中研修

1年かけて同時に2人のコーディネーターを育成し、相互に育ちあう環境をつくりました。育成メニューとしては次のように、居場所作りコーディネーターが必要なスキルを分解し、研修メニューとして組み立てました。（2016年度、NPO法人CRファクトリーコンテンツ作成・テキスト化）

研修メニュー

1) 座学研修（各2時間）

- ① コーディネーターとは
- ② 理念共感
- ③ 面談力
- ④ ファシリテーション力
- ⑤ こまちに関わる人の報酬を知る
- ⑥ 壁打ち（相互理解）
- ⑦ 集客力
- ⑧ 効果的なミーティング設計
- ⑨ プレゼンカ
- ⑩ 自分自身と関わる人の報酬について（補習）

テキスト例

<p>CRファクトリー Community & Relationship</p> <p>こまちぷらすコーディネーター研修</p> <p>関わる人たちの 動機や報酬を理解する ～巻き込む・つなげる・居場所をつくる～</p> <p>氏名: _____ 年 月 日</p>	<p>【人と組織のマネジメントで重要なこと】</p> <p>人と組織のマネジメントで重要なこと 「人と組織のマネジメントにおいて、我々が特に 意識・注目すべき点は、主に以下の2つになる。</p> <p>動機付け 関係性</p> <p>これらにどうアプローチするかが「人と組織のマネジメント」の本質である</p> <p>氷山モデル</p> <p>水面下には「動機付け要因」「関係性」がある。ここにアプローチしない。</p>
---	--

2) 実践研修

企画設計やこまちパートナーの方による大規模企画の伴走等

3) 定期的な面談フォローアップ

月1ペースでつまずいたことや気づきを2時間かけて聞き出しフォローアップする時間を丁寧にとり、学びの定着をします。

2017年度は2人のコーディネーターが自ら上記学んだことや初年度実践を踏まえ研修内容を練り直し、内部で育成し続けられるようなプログラムをブラッシュアップし開発しました。(育成は複数名で実施することが重要)

時間数：1人あたり年間94時間 ×2人 (計：188時間)

内訳) 【座学】2時間×6回(12時間)、【実践】66時間、【面談】2時間×8回(16時間)計94時間/人

※実践については得意を活かした内容を設計、必要時間数は目安

※研修設計側の時間数などは含まれていません。

○現場スタッフへの集合研修プログラム(約15人規模)

本誌P5-6の仮説検証1記載のように、様々な関心から愛着への移行期においては「誰かの後押し」が重要であることが分かりました。入口(例：カフェのホールスタッフ、窓口のスタッフ等)にいる人が関心層を上手に後押しできるような集合研修の必要性を感じ、そのプログラムも開発しました。

研修メニュー

1) 座学研修

- ①理念共感 2時間
- ②面談力 2時間
- ③こまちに関わる人の報酬を知る 2時間
- ④壁打ち(相互理解) 2時間
- ⑤プレゼン力 1時間

時間数：1人あたり年間12時間 ×16人

(計：192時間)

内訳) 【座学】2時間×5回(9時間)

【実践】3時間、計12時間/人

2) 実践 パートナー登録会への参加 2時間 パートナーと各自連絡をとり実際に面談を実施 1時間

3) 発表 運営メンバーへ学んだことの発表



スタッフ向け研修

8. 今後の展開予定メニュー

上記のノウハウをもとに様々な居場所における豊かな主体層と地域における主体市民層が広がるよう、今後次の4つのプログラムを各地で展開をします。

【居場所づくりコーディネーターの育成】

個別訪問型ノウハウ展開プログラム（プログラムA）【対象：居場所・施設運営者】

コーディネーター育成を希望する居場所へ訪問型のノウハウ展開プログラム（助成金などを活用していただくイメージです）。基本現地に赴き、ヒアリング・訪問型研修・面談（スカイプ等込み）を実施。コーディネーター研修のプログラムのうち、特にどの要素が必要かを事前にヒアリングにて整理の上、研修を組み立てます。NPO法人CRファクトリーによるこまちぷらすへのノウハウ展開に近いプログラムです。

必要期間：約1年

居場所における確保いただく時間数：1人あたり年間約100時間 × 2人（計：200時間）

予算：（設計費・交通費…関東圏の場合、場所により相談 研修費込み）：1,000,000円

※2017年度 千葉県松戸市にて実施（12回プログラムのうち3回実施）

集合研修型展開プログラム（プログラムB）【対象：自治体・中間支援組織と共同運営】

居場所づくりコーディネーター育成を希望する居場所へ集合研修型のノウハウ展開プログラム。

自治体等が各自治体における居場所・施設・中間支援組織に向けて実施する研修・実践型のプログラムです。

■テーマ例■

- ・担い手育成に必要なスキルと打ち手
- ・地域課題と個人の課題が交わる場
- ・イベントの立て方と場の設計
- ・関わる人の動機や報酬を理解する面談力
- ・安心して参加できる居場所とは？
- ・理念共有と相互理解

■特徴■

- ①座学とワークショップを組み合わせ、自団体や企画設計につながりやすいよう設計
- ②集合研修による相互研鑽オンラインでのグループをつくり、受講者同士の情報共有ノウハウ共有につなげる

必要期間：3か月 合計時間数：最大24時間（3時間×8回連続講座、短縮や回数調整可能）

想定人数：約35人

予算イメージ：約400,000円/8回（企画設計、研修実施費込み、交通費は別途相談）

【主体市民の育成】

市民向け集合研修型展開プログラム（プログラムC）【対象：市民】

市民ひとりひとりが、自らの興味や関心から「やりたいこと」を考え、地域課題とつなげて具体的なアクションへと動くことを目的とした研修です。参加者の属性や参加動機等をふまえ、グループワーク等を組み立ててプログラムを組み立てます。

必要期間：3か月 合計時間数：6時間 想定人数：15人（一般市民）

予算イメージ：100,000円

※2017年度 神奈川県横浜市都筑区にて実施

単発講座型展開プログラム（プログラムD）【対象：市民・居場所・中間支援・行政】

1回の単発講座です。①市民向けにアクションを考えるきっかけとなるような講座②居場所・中間支援・行政向けに向けに主体層を増やす取り組みのヒントとなるノウハウや事例紹介等を実施します。

必要期間：3か月 合計時間数：6時間 想定人数：15人（一般市民）

予算イメージ：30,000-50,000円（講演者や内容次第）

【2017 年度実施例】

○プログラム A

2017 年度千葉県松戸市 co-no-mi での「訪問型ノウハウ展開プログラム」

- 対象団体概要 ■法人形態：NPO 法人 運営スタッフ：6 人 活動開始年 2013 年
- 活動内容 ■子育て中母親に向けたイベントやセミナーの実施、情報提供、地域とママをつなぐコーディネート事業等、イベントや講座ができる古民家(co-no-mi)を他 2 団体とシェアしながら運営（2017 年 4 月～、松戸駅徒歩 15 分）
- 実施内容 ■事前ヒアリング 1 回、co-no-mi への訪問研修 3 回、こまちカフェへの見学研修 1 回、スカイプ面談 1 回（7 月～2 月）、実践（イベント企画・集客）
- 期間 ■2017 年 7 月～2018 年 2 月（事前ヒアリング 7 月、研修実施開始 11 月～）
- 研修主体 ■こまちぷらすのコーディネーター
選出された 2 人のコーディネーターに 4 か月かけて研修を実施。



○プログラム C

2017 年度横浜市都筑区 子育て支援センターPopola での「市民向け集合研修型展開プログラム」

- 対象者 ■0～3 歳のお子さんをもつ子育て中の母親 14 名
- 募集方法 ■チラシや区の広報等の他、子育て支援拠点のひろばに通う親子を中心に声掛け
- 主催団体 ■都筑区役所こども家庭支援課、都筑区子育て支援センターPopola
- 研修実施内容 ■
全 3 回講座にて、「何かやってみたい」「都筑区を盛り上げたい」と思っている子育て中の親子が「自分のやりたいこと」と「地域ニーズとマッチ」させながら企画を立てた。
第 1 回：「自分のやってみたいことを知り、共有する」
第 2 回：「自分たちのやってみたいが地域の声とつながる」
第 3 回：「グループがごとにチラシをつくりプレゼン～地域資源を知り、つながりをもつ～」
→ 最終回プレゼンは、地域に場を持ち企画の場所を提供できる施設の担当者に聞いた。
3つの企画が発表され、うち1つの企画が地域ケアプラザにて実現。

- 期間 ■2017 年 9 月～11 月
- 研修主体 ■こまちぷらすのコーディネーター
- 特徴 ■

①拠点との連携

居場所に通っている人へ個別声掛けをし、スタッフが参加への後押しを実施。「何がこの地域にあったら嬉しい？」のアンケートと併せて「いっしょに考えてみない？」とお誘いいただいた。

②自己実現と地域課題の接点を見つける

共通の課題感、困りごとを話し共有できる時間を多めに設計し、信頼関係を作ったうえで企画設計を実施。結果、イベント企画のみならず参加した人がそれぞれ求めていた「報酬」（自分がとりもどせる、つながりができる等）を得たという感想が聞かれた。

③地域資源との接点をつくる

第 3 回では、地域の施設運営者や支援関係者に、市民による企画発表を聞いてもらうことで、何より応援してくれている「地域の人」が見え、実施にむけてつながることができた。

9. 事業性

こうした居場所における「対話」を重視した担い手育成の場の設計は重要です。しかしながら、事業性に欠けると継続性が難しいため、各ステージにおける利用者負担及び個人寄付や地域負担（寄付・協賛）を組み合わせながらすすめることが必要です。

そこで、本事業においては、利用者負担（参加費・会費）と地域負担（寄付・協賛）を2層に分けて整理し、1年目は特に利用者負担部分の設計を主に、2年目は地域負担部分を設計、実施しました。

図5：利用者負担・地域負担の割合イメージ

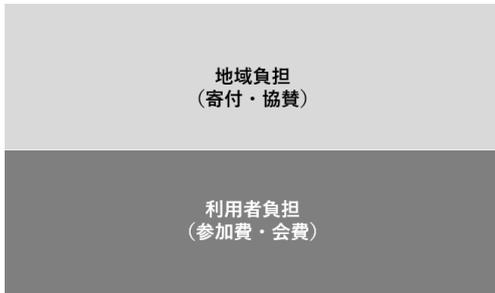


図6：本事業における3カ年の自主財源設



※3年目は計画のみ・助成未定

利用者負担部分については、主に500円～1000円程度の各打ち手の参加費（おしゃべり会・パートナー説明会・パートナーぶらす会員向け交流会・フューチャーセッション）に加えて、パートナーぶらす会員会費（半年3000円/人）が主な収入源になります。（利用者負担は全体の約50%）一方で、地域負担部分については、主に恩送りカード及び協賛になります。（地域負担は全体の約50%）

表3 2017年度目標（4-3月）と実績（4-2月）、達成率

	目標 (2017年4月～2018年3月)	実績 (2017年4月～2018年2月)	達成率	補足事項
おしゃべり会等イベント	460,000	534,300	116%	
パートナー説明会	60,000	20,500	34%	
パートナー交流会	27,500	102,500	373%	
パートナーぶらす会員会費	90,000	93,000	103%	
フューチャーセッション	180,000	209,500	116%	
恩送りカード他寄付金	60,000	72,000	120%	72枚
チラシ協賛	900,000	900,000	100%	30万×3社
事業売上合計（成果報告会除き）	1,777,500	1,931,800	109%	
成果報告会	180,000	0	0%	
事業売上合計	1,957,500	1,931,800	99%	

利用者負担（50%）
地域負担（50%）

恩送りカードについて

南イタリア・ナポリのカフェで100年ほど前に始められた「恩送りコーヒー」からヒントを得て、（日本ではこはげ珈琲が東京にて初めて導入）始めた制度。送り主の方が指定した「電車好きの親子のママへ」や、「〇〇に由来のある人へ」などといった条件を満たしているカードを選んで、カフェ来店者が飲み物を送り主のご好意で一杯飲むことができます。（1,000円のうち半額はドリンク代、半額は法人への寄付金。）

手順：①1,000円で1枚カード購入→②プレゼントしたい相手の条件を指定→③該当する人はその券を使い無料でドリンクを飲める→④送り主へお返事を書く→⑤店内に配架 ※事項参考資料参照

チラシ協賛とは

本事業含め、こまちカフェの取り組みを応援していただける企業様による協賛の枠組み。カフェ内おしゃべり会等を掲載したイベントチラシ裏面に1社年間30万円×3社の広告宣伝枠を設けました。広告枠という位置づけ以上に、ご契約者の方々はこのこまちカフェの挑戦への応援という気持ちで出してくださっています。2017年4月から開始。

協賛チラシ



10. 参考資料～こまちぷらすで使用しているさまざまなアイテム～

こまちパートナーぷらす会員
「きっかけ・ゲット・フューチャー」シート / 名前:

【きっかけ】
Q.なぜぷらす会員になってみようと思ったのか?

【ゲット】
Q.ぷらす会員になって得たいことは?

【フューチャー】
Q.ぷらす会員交流会の参加や活動を通して何を実現したいか。1年後どんな自分になっていたいか?

Copyright(C) NPO法人こまちぷらす. All Rights Reserved. 1

「きっかけ・ゲット・フューチャー」シート

パートナー登録後の面談やぷらす会員、スタッフ自身も使用。

- ・登録や参加に至った「思い」
 - ・取り組みたいこと
 - ・一年後や半年後どうなっていたいか？
- を考え、共有する。

「ぷらす会員」や「企画の会」コメントカード

参加者間での気づきや思いのやりとりのツール
項目は使用機会に応じてアレンジ。
プレゼンの機会には全員に配り、記入したものを
交換する。

さん♪

共感しました♡

発見でした!

応援してます(-^)/

2017.11.27

より

さん♪

響きました!

質問

2017.11.27

より

面談シート

パートナーとの面談の有無や内容をコーディネーター間で共有。

思いやりややりたいこと、どんなことをお勧めしたのか、今後の活動など動きがある度に記入。

※Google スプレッドシートの活用で常に最新状況を共有。

	お名前	状況	打ち手・ネクストアクション	面談日	面談者	パートナー登録
1						
2						

★聞わりに関係するようなものは立ち話等でも記録として残す。

恩送りカード

送り主の方が指定した「電車好きの親子のママへ」「〇〇に由来のある人へ」などといった条件を満たしているカードを選んで、カフェ来店者が飲み物を送り主のご好意で一杯飲むことができる。

(1,000 円のうち半額はドリンク代、半額は法人への寄付金。)

ありがとうをつなげよう
恩送りカード

送り先:

送り主:

コメント:

召し上がったらお返事を
お願いします♪

..... 下のメニューから一杯プレゼント!

・こまちのコーヒー (ホット) ・きび抹茶 (ホット or アイス)

・こまち茶 (ホット or アイス) ・アイス珈琲 ・アイスティー

お返事:

より

memo

本事業はNPO法人CRファクトリーと共に行っている「地域の居場所づくりと参画のデザイン」
の一環で、日本財団の助成を受け活動しております。

こまち流[®]まちの担い手[®]が育つ場のコーディネート研究実践 報告書

2018年3月4日初版

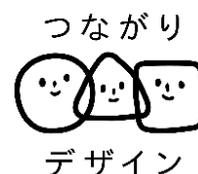
特定非営利活動法人 こまちぷらす

理事長 森 祐美子

所在地 横浜市戸塚区戸塚町145-6 奈良ビル2F

【つながりデザイン事務局】 HP : <http://comachiplus.org/wp/tsunagaridesignproject>

Email : tsunagari@comachiplus.org Tel : 045-443-6700



※本書の本文及び写真等をご使用される場合は、当法人までご一報ください。

